Ⅲ　広沢池の魅力と価値

・Ⅱ章「広沢池の沿革及び現況」及びワークショップの御意見等を踏まえ，広沢池の魅力と価値は，以下のように整理される。

【広沢池の魅力】

〇平安時代から多くの歌や文学に取り上げられ，眺望と四季の景物（月，周囲の山並み，田園，水面，水鳥）にすぐれた景勝地であったこと

・広沢池は，８～９世紀ごろに作られた人工池であり，平安初期には仁明天皇が嵯峨院行幸の際に休憩したという記録がある。

・池のほとりには，嵯峨院や遍照寺の建物が建てられ，往時から観月の名所として，大宮人が盛んに訪れ，詠歌も多く，歌枕となり，名所となった。

・近世の名所案内記・紀行からは，広沢池が池の西岸を視点場として東山から出る月が水に映るさまを楽しむ場所であるとともに，「広々とした池の眺め」や「四方に望む山（遍照寺山，愛宕山，音戸山）の眺め」「池辺と水鳥の長閑な風景」を楽しむ場であったことが読み取れる。

・『都名所図会』（1780）などからは，池のほとりでやすらぎながら酒を飲み風景をめでる視点場（茶屋や桟敷）が作られていたこともわかる。

〇広沢池池畔から水面をはさんで表情の異なる景観が広がっていること

・東岸から：遍照寺山から愛宕山を経て北嵯峨の田園風景，曼荼羅山（鳥居形），小倉山へと展開する眺望

・南岸から：遍照寺山から愛宕山へ続く山並みへの眺望，北嵯峨の田園景観

・西岸から：遍照寺山から音戸山へと続く丘陵への眺望（観月の名所）

〇平安時代から江戸時代の景観が現在までほぼ残されていること

・百年以上前から，北嵯峨一帯の土地利用は大きく変化していない。

・平安人が愛でた「嵯峨野」の「野のイメージ」を今に伝える。

〇市内有数の自然環境が残されていること

・ヒクイナ，クイナ，カイツブリなどの希少な鳥類の生息地であるとともに，京都市の生物多様性の保全上重要な生きものやその生息・生育場所として，「京都生きもの 100 選」（2016.1 京都市）にも選定されている。

〇地域の方に親しまれ，大切にされていること

・地域のシンボルとして，「どこから眺めても美しい景色」「昔から変わらない景色」「歴史的な香り・雰囲気」が親しまれ，大切にされている[33]。

33) 第１回ワークショップ御意見など

【広沢池の価値】

・平安人にも愛でられ，多くの歌にも詠まれてきた景観・景物が，今日まで残され，引き継がれていること

・市街地内に残された自然環境として，貴重な空間であること

・それら広沢池の景観・景物を，今も地域の方が大切にし，誇りに感じておられること

【保存管理の目標】

・広沢池の魅力や価値を踏まえ，保存管理の目標を以下のとおりに設定する。

平安人も愛でた広沢池の歴史的景観や自然環境を守り，未来に伝える